

緑の相談所だより

発行
平成 16 年 12 月 1 日
編集

No. 91

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所

講習会のご案内



お申し込み・お問い合わせは

電話

(0166) 65-5553

旭川市緑の相談所まで。
どうぞ、お気軽にお電話ください。

「お正月用しめ飾り作り」

日時 12月18日(土)

午後 1時30分 ~ 3時30分

「お正月用リース作り」

日時 12月19日(日)

午後 1時30分 ~ 3時30分

講師 工房稲わら 古屋 良子 さん

定員 どちらも各20名

教材費 どちらも1,000円

場所 旭川市緑の相談所 学習室

年末年始の休館日のご案内

12月29日(水) ~ 1月4日(火)

以上の7日間休館いたします。

なお、1月5日からは通常どおり開館します。



花ことば

師走・12月に入り屋外はすっかり冬景色になりましたが、これからは室内で鉢花や観葉植物を楽しむ季節です。今回はこの代表的な鉢花の「花ことば」を見てみましょう。

ポインセチア 花ことば【祝福・私の心は燃えている。】

メキシコ原産でトウダイグサ科ユーフォルビア属の常緑多年草の花木です。アメリカからヨーロッパへ渡り品種改良されて世界に普及しました。日本には明治中期に渡来したと言われています。最近では赤のほかピンクやクリーム、マーブルなどが市販されています。

色づいたように見えるのは苞と呼ばれる葉が変化したものです。苞のつけ根にある小さい黄色いものが本当の花です。

鉢花として、特にクリスマスが近づくと街中で目に付きますが、魔よけの色を表す赤と、永遠の生命を表す緑はクリスマスを象徴する色なのでこの2つの色を合わせ持つポインセチアはこの時期に好んで飾られています。

クリスマスに花をつけるためには、9月下旬頃から夕方5時から翌朝8時までダンボール箱などで短日処理(60日間)をします。また夜の長いこの時期は電燈をつけない部屋でもうまく色付きます。

鉢花選びのポイント

- 茎が太く、節間が詰まり株全体がしっかりしている。
- 葉の枚数が多く、下葉が落ちていない。
- 葉(苞)の色つやが良い。
- 中心の花があまり開いていない。



シクラメン 花ことば【嫉妬・内気・はにかみ(英) 過ぎ去った喜び(仏)】

ヨーロッパから中近東の地中海沿岸の原産でサクラソウ科シクラメン属の球根植物です。18世紀初め頃からヨーロッパで栽培され、19世紀後半からドイツ、オランダ、アメリカで品種改良され、日本には明治初期に入ってきました。花のあでやかさから年末、年始にかけて人気の鉢花です。

夏は冷涼な気候を好むので旭川近郊の農家でも栽培され、この時期の本州方面にたくさん出荷されています。

花の咲いた後の球根をブタが好んで食べるというイワシから「ブタノマンジュウ」という和名がありますが、別名の「かがり火花」(カガリピバナ)のほうが鮮やかな花と合いますね。

満開に咲いている姿は華美に成熟した女性を思わせ、「嫉妬」の心がくすぐられるような気がしませんか。

鉢花選びのポイント

- 葉が硬くしまり、大きさが揃っていて色つやがよい。
- 球根の肩の部分が土の上に出ている。
- 花柄が太くしっかりしていて、5~6輪揃って咲き、開花を待つつぼみがたくさんある。



参考資料 「花ことば」平凡社、「花ことばファンタジー」カラーブックスなどから引用

1月の園芸作業

1 鉢 花

- ☆ 今年度の花壇設計や栽培計画を立てましょう。
- ☆ 厳冬期の管理で一番大切なことは室温の変化、特に最低気温が何度になるかによって水やりや施肥に気をくばりましょう。
- ☆ シクラメンは花が傷んできたら、花茎をねじって引き抜きます。葉も同様に管理しましょう。
- ☆ ベコニア・センパフローレンス・ロベリア・ガゼニアなどの育苗日数を要するものや5月頃咲かせたいものは種まきの準備をしましょう。
- ☆ アマリリスが休眠から覚め芽が出てきた場合は植え替えをして、居間などに移し水やりをしましょう。

2 花 木 類

- ☆ アザレア・ツバキなどの開花株は明るい場所なら窓辺の日が当たらなくても15度前後で管理し、花が終わったら10度くらいの所に置いて休眠させましょう。
- ☆ ハイビスカスは雪降りなどのため光線不足で花つきが悪い時期です。伸び過ぎている場合は切り戻して側枝を出しましょう。

3 観葉植物

- ☆ 室内が乾燥するため、カイガラムシ・ハダニの発生が心配になります。早めに発見して駆除するとともに霧吹き、浴室でのシャワーをしましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- ☆ シャコバサボテンの花が咲き終わった株は、2~3節つけて切り取り、挿し木しましょう。
- ☆ カランコエは開花時期です。日の当たる窓辺に置いて十分日光に当てましょう。

5 洋 ラ ン

- ☆ シンビジウムはつぼみが20cm以上成長した鉢は15~20度に温度を上げると生育が進みます。
- ☆ テンドロ・ノビル系は花芽を確認するまで12月と同様に管理します。

12月の園芸作業

1 鉢 花

- ☆ シクラメン・プリムラ・ガーベラなどは日中窓辺の日当たりのよい場所に置き、夜は玄関などに置いて10~15度の低温で管理しましょう。低温が目立つ場合は、乾きぎみに管理しましょう。肥料は居間などの暖かい室内の場合は週1回以上1000~1500倍の液肥を与えましょう。
- ☆ クンシランは玄関や無暖房の室内に置き、10度程度で管理していると花芽が出てくるので伸びてきたら居間に移し、水と液肥を与えましょう。

2 花 木 類

- ☆ ハイビスカス・ポインセチアなどは日当たりのよい場所におき、最低温度15度を保ちましょう。肥料も1500倍の液肥を週に一度与えましょう。
- ☆ アザレアは日が当たらない場所でも咲くので温度の低い場所でゆっくり咲かせましょう。

3 観葉植物

- ☆ 観葉植物の種類は大変多いので、植物の性質をよく理解して管理しましょう。
- ☆ 高温性のクロトン類は室温が13度以上保てないとやがて落葉しますので注意しましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- ☆ 休眠中のサボテン類(親株)の水やりは春まで中止しましょう。
- ☆ クジャクサボテンは水やりを中止し、無暖房の室内で夜間凍らない程度の温度が下がる場所で1月いっぱい休眠させ、夜間照明する室内には置かないようにしましょう。

5 洋 ラ ン


- ☆ シンビジウムは花芽が15cmくらい伸びると支柱を立て、この時期に発生した葉芽は残します。
- ☆ テンドロ・ノビル系は花芽分化の時期ですので日光と低温(日中20度、夜間7~8度)で管理し水は控えめにしましょう。



冬の室内の温度管理について




冬の室内は乾燥がちで温度が非常に低くなります。ですから室内で育てている鉢花などの手入れもそれを考慮しなければなりません。では、どうして冬の室内は湿度が低くなるのでしょうか。考えてみたいと思います。




1 湿度とは何？

湿度とはその空気を含むことができる水蒸気量に対して現実を含んでいる水蒸気量の百分率(%)で表わされます。また、その空気を含むことができる水蒸気量は空気の温度によって異なり、温度が高くなるにしたがって水蒸気を多く含むことができるようになります。これを模式図にすると下の絵のようになります。

例  ○ 水蒸気の含み得る量
● 実際にそこにある水蒸気量
一室の部屋

(1)  ⇒  この時の湿度 = $\frac{\text{●}}{\text{○}} \times 100 = \frac{2}{4} \times 100 = 50\%$
乾燥した部屋 一般的な部屋

(2) (1)の一般的な部屋の温度が上がった時
 ↓  ⇒  この時の湿度 = $\frac{\text{●}}{\text{○}} \times 100 = \frac{2}{6} \times 100 = 33\%$
温度が上がると水蒸気の含み量が増加する。 一般的な部屋

(3) (1)の実際に水蒸気を含んだ状態で温度が下がった時
 ⇒  ↓  この時の湿度 = $\frac{\text{●}}{\text{○}} \times 100 = \frac{2}{2} \times 100 = 100\%$
温度が下がり水蒸気の含み量が減少する。 一般的な部屋

以上のように冬の部屋は夜暖房を止めて、昼間は暖房機を動かすことによって湿度が非常に大きく変化します。乾燥した空気は周りから水分を吸収します。だから、冬の暖かい空気の中で洗濯物などを干すと乾きが早いわけです。そして、同じように鉢花などの水分がどんどん吸収され乾燥していきます。ですから、室内で植物を管理していく場合このことを念頭において水やりや水の葉面散布などを考えなければならないのです。

2 室内での植物管理

冬の室内は前記のとおりですが、これは人が快適に過ごすために行った結果です。それと同じところで植物が快適に生育できる環境をどうつくるかが植物を育てる私たちの課題です。それらの方策を2~3あげてみたいと思います。

- ① 水やりと葉面散布。(シリンジ)
- ② 水盤上に鉢を置く。(鉢は水面に触れさせない)
- ③ ビニールシートで囲んだ中に置く。
- ④ 加湿器で空気中の水分を補う。
- ⑤ 特に温風など空気の流れの強いところに置かない。

この他にいろいろの方策があると思いますが、様々な工夫をこらして素晴らしい鉢花等を育てていただきたいと思います。